



発行所 財団法人全日本仏教会 東京都中央区築地三丁目一丁目三番地 電話(03)376003 振替東京三三六〇〇 発行人 栗本俊因 編集者 別所弘因 印刷所 栄昌堂

# 新年を迎えて

全日本仏教会々長 大谷 光暢

全国の仏教徒のみならず、明けましておめでとうございます。新春を迎えるにあたり私は各位と共に仏陀の慈光に深い感謝の念を捧げると同時に、本年こそ世界平和への道がより大きくしかも明るく切り開かれることを祈りたいと思います。



大谷光暢 全日本仏教会々長

世界の状況は年を経るに従って序々に平和の足音が高まつて来ておりますが、それと同時に人類の飽くなき平和への願いは、益々強くなりつつあります。永い間、西洋諸国家の圧力下でも、だえ苦しんだ国々は夫々涌き出る泉水のように次々に独立の意欲にもえ、力強い歩みを始めたのであります。この人類の開眼は人類史を明らかに塗り代えたと同時に、世界歴史をも転換させる時を招来したものと云えるものであります。

しかしながら私達は昨年我国に惹起した政治テロと社会悪の激増と、その背景・原因を静かに考えねばならないと存じます。精神的支柱を失った一部の若人は、その飽和のためには手段を選ばず、しかも何のためらいもなく、公然と暴

# 新春におもろ

全日本仏教会理事長 太田 淳昭

新しい年を迎えるにあたり、全国の同信各位とともにみほとけの限りない慈光に深い感謝の念を捧げる次才であります。一昨年以來、不肖私が本会理事長の職をけがし乍らも、大過なくこの重任を全うし得ましたことは各位の深甚なる御指導・御支援の賜と厚く感謝申し上げます。何卒本年も倍回の御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

我々は昨年五月下旬に、仏教王国と云われる古都金沢市において、才八回全日本仏教会議を開催し、全国から参集せる一千有余名の熱心な代表者の方々と共に、二日間に亘り現代の仏教界における懸案の諸問題を討議し、仏教徒の結束を益々強めたのであります。私はこの大会において結論づけられた幾多の御意見を尊重し、着実なる実践への道を歩みたいと念願いたしました。私にはこの大会において特に認識を新たにしたのは、現代の大きな悩みである青少年教化と、地域の組織強化に対する要望がきわめて強く二つの大きな問題であります。この二つの大きな問題は、従来から大会においても大いに研討を加えて来ている問題であります。特に昨年は日本の歴史に憂うべき安全保障、社会解放と云う大問題が惹起し、それを反映して社会には政治テロ行為の横行並に凶悪犯罪が続発し、仏教徒と云えどもこの暗黒混沌の情勢を黙視し得ず、たしに金沢大会での雰囲気はその激しさと真険さにおいて従来にないものがあつたのであると思われま

次に私は昨年をピークとして起つた、創価学会の主として寺有墓地に対する暴力行為を見逃すことは出来ません。凡そ暴力はその理由の如何を問はず許すべからざるものであります。豈んや我々の信奉する仏教の「宗教性」を完全に無視した彼等の暴挙は、断じて許せない問題であります。この問題は、わが仏教史上における重大な問題であると思ひます。全仏としては本問題を解決すべく総力を結集して、昨年来、行政訴訟、国会への請願運動を強力に実施しつ

つあります。また東京において、墓地対策委員会が結成され、全仏ときわめて緊密な連携のもとに、本問題の解決に向つて鋭意努力中であります。この機会に私は全国府県仏教会に夫々墓地対策委員会が結成され、本問題解決のため努力されることを切望いたす次第であります。そのためには、各府県仏教会の組織がより一層充実せねばならないと思ひます。私は今日こそ仏教のいちちである教化の拡充と全国仏教会の組織の充実が望まれてはいる時はないと思ひます。

謹賀新年		財団法人 全日本仏教会	
会長	大谷 光暢	副会長	岸 信宏
理事長	太田 淳昭	同 理	小野 清一郎
同 理	鶴田 昌清	同 理	岸 信宏
常務理事	来馬 道断	常務理事	末広 愛邦
	望月 恒匡		千々和 宝天
	平林 宥高		常岡 慶信
	長岡 浩然		村 上 道隆
	佐々木 近衛		津 野 正道
	岡 池 繁雄		安 藤 信一
	三 原 信一		塚 原 徳広
	藤 川 博		監 事
	大 村 仁道		栗 本 俊道
	狩 野 獲麟		石 川 存静
	別 所 弘因		吉 井 浄仙
	柳 了堅		阿 部 英昭
	林 部 英信		渡 辺 孝全
	佐 藤 孝全		阿 部 英昭
	林 部 英信		渡 辺 孝全
	佐 藤 孝全		阿 部 英昭
	林 部 英信		渡 辺 孝全
	佐 藤 孝全		阿 部 英昭

現代における仏教の使命

大谷大学教授 文学博士 舟橋 一哉

わたくしは平素仏教古典に親しんで...

ぶつかつたとするならば、これらの人たちは...

はつねに「信知」であり「信慧」であります...

謹賀新年

衆議院議員

川島正次郎

衆議院議員

松村謙三

中野区鷺の宮六の七五六

衆議院議員

田中栄一

衆議院議員

大沢雄一

自宅 浦和市別所二、〇四八番地 衆議院会館 才四号館 才四一〇号室

衆議院議員

賀屋興宣

世田谷区代田一の七八八

衆議院議員

山口喜久一郎

東京都品川区西大崎三ノ三九 電話大崎四一(四八三三〇番)

衆議院議員

福田篤泰

世界仏教協会会長 日本真宗宣伝協会会長

月刊「世界仏教」主幹 月刊「真宗の世界」主幹 月刊「女性仏教」主幹

野依秀市

東京都港区芝公園七ノ三 電話芝四局二六二六

輪王寺門跡 菅原栄海

横浜市鶴見 曹洞宗大本山

総持寺

貫首 孤峰智璨 副貫首 岩本勝俊 西院 細川石津爾 監院 松田亮孝 後院 室峰梅逸 副監院 桑原彭禪 副頭 鷺見透文 単頭 松浦英文 布教部長 外役寮一同

衆議院議員

床次徳二

世田谷区世田谷一ノ三〇二

か。仏教二千五百年の歴史は、仏教が型にはまらうとする、一方でその型をやぶつて行こうとする運動が起る、そして死にかかった仏教が生きを吹きかえず、それがまた、時代が経つというといつとはなしに型にはまってしまう、するとまた、その型をやぶつて瀕とした生命が仏教に湧いて来る、そういうことを二千五百年の間くりかえしくりかえして来たのではないでしようか。ですからインドの仏教にはインド的な性格があり、シナの仏教にはシナの性格があります。そういうインドの性格、シナの性格は、「仏教」が着ている着物のようなもので、その時その時の「仏教」の装いでしかないのに、それが仏教の根本精神そのものであるかのように誤認して、そういうものにしがみついているならば、それは「義」によって「義」による「者」と言わなくてはなりません。例えば、戒律というようにものを例にとつて考えて見ますならば、わたくしは、戒律にはその時代、その民族、その国の風土、などから受ける影響が非常に大きいと思うのであります。その時代においてこそ意味があつたが、これを今の時代にそのままあてはめようとするのは、全くナンセンスでしかないような戒律が沢山あります。「比丘の二百五十戒」といわれるものの中には、「インド人の風俗習慣を前提としてのみ初めて意味があるような戒律があります。それをそのまま現代の日本へもつて来て、それは無意味であります。(五戒の中には不飲酒戒なども、わたくしは多分にそこにインド的な雰囲気を感じる者です。少くとも、もし釈尊が日本に生れられたなら、不飲酒戒を不殺生や不偷盗や不邪淫や不

妄語とならべて、五戒の一つとはせられなかつたであらう、と思われまふ。戒律だけではありませぬ。仏教の教理の上にもそういうことは認められます。例えば、睡眠を煩惱の一つとして数えるというようなこと、こういうことも、あの熱いインドの国を背景として考へないと充分に納得ができません。仏教が本當の意味で日本人のものとなつたのは、鎌倉仏教以後のことでしょうが、そういう点で鎌倉仏教の祖聖たちは、仏教の精神を日本人の上に、当時の日本人に最も適した形において植へつけたのです。こういうことも、「義」を所依として語を所依としない」ところの大乗仏教にして初めて言えることであつて、小乗仏教ではそういうことにはならないはずで、ですから、我々大乗仏教を奉ずるところの者は、つねに「仏教を現代に生かす」ということに努力しなくてはなりません。それが祖聖にこたへ奉る唯一の道であつて、時代の流れにとり残された「仏教」の形骸に、いつまでもしがみついてはなりません。そういう意味で、わたくしは「我等は仏教徒としていかにあるべきか、何をなすべきか、いかなる態度をもつていかに行動すべきか」ということについては、まず「祖聖だつたらどうせられたであろうか、一つの指標になると思う者であります。(四依の才三は「智に依るべし、識に依るべからず」ということで、仏教が、仏の智慧をよりどころとして、人間の知識をよりどころとするものでないことを示したもので、才四は「了義経に依るべし、未了義経に依るべからず」ということで、大乘経典に依つて小乗経典によつてはならない

ことを示したものです。

次にわたくしの言いたいことは、仏教を現代に生かすということに關連して、仏教が現代人に誤解せられてゐる点の一つに、「仏教は人間を弱くするものである」ということがあるように思ひます。浄土教、とくに真宗においてこのことは顕著であります。例えば、「感激は極楽、不平は地獄」という標語があります。これで決して間違つてゐるわけではありませんが、しかし「歩調」と「仏教は人間を骨なしにするものである、他人の言ひなり放題になることを教へるものである」ということになつてしまふ。これでは大変です。こういう、仏教に対する誤つた印象が現代人、とくに青年男女の上にあつて、それが原因となつて、仏教が現代青年にとつて魅力のないものになつてゐるのではないかと、思われるのであります。しかし仏教は決してそういうものではありません。仏教は人間を骨なしにするものではなくて、かえつて人間にバック・ボーンを与えるものです。ただその「強い」ということが、世間で「強い」といふような「ただの強さ」でなくて、仏教のいう強さを教へるのです。それは、強いように見えないが、本當は一番強い、というような強さです。強そうに見える強さは、いわば「むき出しの強さ」。「強い」点ばりの強さであつて、それは頑固かたくなといふことです。仏教の教へる強さは「柔軟なる強さ」です。それは「むき出しの強さ」のもつ欠点である「もろさ」を克服したところに与えられるものです。弱さには弱さのもつ欠点がある。強さには強さのもつ欠点がある。その両方の欠点を克服して、弱さと強さとを※

曹洞宗々務庁

- 管 長 高階 瓏 仙
- 宗務 総長 来馬 道断
- 参 議 来馬 琢一
- 金剛 秀一
- 財務 部長 村上 道隆
- 教化 部長 遠藤 靈羊
- 庶務 部長 谷北 俊竜
- 教育 部長 海野 義雄
- 秘書 課長 芳賀 達宗

真宗大谷派

- 宗務 総長 宮谷 法含
- 参 務 訓 朝 信雄
- 参 務 經 本 壬寅
- 参 務 五 辻 実誠
- 参 務 佐 々 木 近衛
- 参 務 宇 都 宮 觀道

浄土真宗 本願寺派

- 総 長 武田 達誓
- 総 務 阿部 慶昭
- 総 務 有馬 清雄
- 総 務 湯川 汝劫
- 総 務 安野 三暁
- 総 務 川野 三暁
- 親鸞 聖人七百回大遠忌事務所
- 常務 理事 柴田 政文
- 常務 理事 中戸 堅正
- 常務 理事 芝原 郷音
- 常務 理事 藤枝 照真

衆議院議員

中馬 辰猪  
鹿兒島県才二区選出

真言宗

豊山派宗務所

- 管 長 鶴 昌清
- 宗務 総長 平林 宥高
- 庶務 部長 小野塚 潤澄
- 教学 部長 川田 聖見
- 財務 部長 久保 埜大清

顕本法華宗々務院

- 管 長 秋葉 日敬
- 宗務 総長 近津 聖学
- 宗務 次長 朝倉 俊夫
- 教務 部長 三田 村光道
- 財務 部長 渡辺 大航
- 社会 部長 栗原 顯孝
- 庶務 部長 吉永 正晴
- 書記 星野 純正

梶本 日颯

招善寺

泰 隆 真  
京都市北区大宮西野山町三四  
電話(44)七七二番

# 渡米中の孤峯禪師 アイゼンハワー大統領と会見

## 共に平和の礎たらん事を誓う

概報のとおり日米修好百年にあつて、去る九月廿八日夜空路羽田より渡米した曹洞宗大本山総持寺貫首孤峯智際禪師は、ハワイ、北米等を巡錫中であつたが、日本時間の十二月一日午前十時三十分よりワシントンのホワイトハウスにおいてアイゼンハワー大統領に謁見の機会を得た。

同禪師は通訳を通じて、「私は大統領に非常に印象づけられた。そして私は大統領の行動や風格がきわめて厳格な軍人であると思つてきたが、大統領もまた一人の平和を熱望する人であることがわかつた」と述べ、禪師の、日本では是非お目にかかりたいとの言葉に、私も日本を訪れたい希望を持つていると答え、終始なごやかな雰囲気の中に会見を終えた。同時に禪師は離日に際して携行した全仏大谷会長のメッセージを大統領に手交し共に平和の礎とならんことを誓い合



い力強い握手を交した。禪師一行は帰路ヨーロッパ各国を訪問のうえ、十二月二十二日帰国された。

なお会見のようについて在米日本大使館より外務省を通じて本会

# 池田首相各界代表と懇談 仏教界から多数出席

池田自民党総裁は、十二月三日午後一時から東京赤坂プリンスホテルで過般の衆議院総選挙に大勝し、それに伴い自民党の新発足にあつて、各界から二百名の代表者を招いて盛大に午餐パーティを催し種々懇談した。当日は池田自民党総裁をはじめ、党各議員が出席し、各界代表の激励のこづばに傾聴していた。全仏からも倉持秀峰、米馬道断常務理事、阿部蓮伝

評議員、狩野、栗本局長などが、また東京築地対策委員会から小松委員長以下多数が出席した。席上倉持秀峰師が全仏を代表して激励の挨拶をした。

# 在日韓国仏教徒が祖国へ出発

概報のとおり、韓日両国の仏教による友好親善を深めると共に、両国仏教徒交流の橋渡しの任務を以て渡韓することになつていた在日大韓仏教連合会(在大阪)派遣の仏教使節一行三〇名(趙团长)

※超えないところに、別の意味の強さが与えられる。それが仏教のめざす「柔軟という強さ」であります。それはまた否定と肯定とを越えた「否定即肯定」の世界という意味で、「真空妙有の実践」ということではないかと思われまます。(才五回中央講習会における講演要旨)

は日本側外務・法務両省の認可が下り日本仏教各宗派、全仏等の後援を得て、十二月八日神戸港より韓国船海洋丸にて壮途についた全仏では使節団の出発に際して韓国仏教徒に対して大谷会長の祝辞並に仏教大年鑑、書籍等を託すとともに全仏代表として兵庫県仏佐藤副会長が見送り、使節一行を激励した。なお一行は現地到着後、関係筋と相互交流について接渉する一方、戦前の日本仏教各宗開教寺院、我國仏教大学卒業者等を調査し二月頃帰国する。

# 釈尊成道の夕べ盛会

釈尊成道の十二月八日午後五時から東京文京区大塚の若葉会館において、東京仏教団仏青、仏婦の主催で「成道の夕べ」が開かれ、都内仏教諸団体から約一五〇名が参加して盛大であつた。当日は草葉隆平、大谷よし雄、安藤寛、赤松常子、山本杉氏ら仏教系国會議員らも出席し、松本徳明氏の「成道の日に現代の日本を見る」の講演や、足立声光氏(仏教琵琶伝道宗家)による奉納琵琶「降魔成道」をきき、意義深い一時をすごした。なお当日、全仏から大村事務係長が出席し挨拶をした。

# 謹賀新年

## 大本山永平寺

貫主 熊沢泰禪  
副主 福井天章  
監院 佐藤泰舜  
後堂 秦慧玉  
副監院 大塚道光  
副頭 鎌谷仙龍  
単頭 伊藤寿彦  
外役寮一同

## 東京仏教団

理事長 長岡慶信  
常務理事 阿部龍祐  
同 小松純祐  
同 星野義海  
同 麻布照道  
同 松田明道  
同 山中浩文  
同 栗本俊道  
事務局 東京都文京区大塚上町西信寺中

## 千葉県仏教会

会長 荒木照定  
理事長 熊野竜夫  
千葉市吾妻町二丁目光明寺中  
電話〇四二七八番

## 神奈川県仏教会

総裁 孤峰智瑠  
会長 高橋隆天  
副会長 峯堅雅  
同 吉水智承

孝道教団本部  
孝道山本仏殿  
統理 岡野正道  
横浜市神奈川区孝道山

京都・東山  
総本山 知恩院  
門主 岸信宏  
執事長 千々和宝天

浅草本願寺  
輪番 末広愛邦  
東京都台東区浅草松清町二〇〇

静岡県仏教会長  
静岡県宗教連盟委員長  
木全大孝

# 創価学会員による

# 福井でまた暴行事件発生

## 全仏の善処方を要望

昨年の仏教界は墓地問題に明け暮れたが、全仏としては現在この問題の解決のために、厚生省新通達を違法なりとして訴訟中であり、また一方墓地埋葬等に関する法律第十三条の改正を目的として関係各省に二回に亘り、請願を成し、更に国会に対して請願すべく全国寺院より寄せられた請願書（現在まで凡そ五万通）を整理し近々提出するよう準備中である事は概報の通りである。ところが最近、福井県仏教会（理事長亀淵博師）管内に創価学会員による暴行事件が発生し同仏教会を通じて事件の経過を報告すると、善処方を要望して来た。この起りは浄土真宗本願寺派広照寺（住職南沢広之師）に起つた事件であるが、かねてから南沢住職は殊に新興宗教対策に専念努力して来てをり、今日までその門信徒数名を新興宗教より脱退せしめ、ために新興宗教側より報復の的となつていたと云うことである。即ち三年前に広照寺某門信徒が創価学会員数名に説誘されて入会したが、かえつて不幸が統発したので、学会脱退を決意し、曼荼羅の処分を同寺住職に委託した。その後学会員が同曼荼羅の取戻しに来山したが果さず、昨年九月曼荼羅返還を望む学会員十数名は住職の制止もきかず本堂に侵入し、住職を押えて本尊を奪取せんとして、

本尊を損傷するばかりか、住職にも全治十日間の傷を与えた。丸岡警察署ではこの事件を調査し調書作製の段階に立ちいたつたが、学会側では国会議員の強い圧力をかけ、一件書類の検察庁回示は実に一ヶ月の長きに亘つた。住職の強い意志は、あくまでも法の正しい裁きによつて解決すべきであるとし、九月三十日並に十一月十六日には住職ら関係者が福井地方検察庁から招換され、学会員の要望により示談にて解決方如何と尋問された。なお本願寺派福井教区教学審議会並に臨時組長会開催の結果、本件は一地方に起つた問題であるが、全仏の問題として考えるべきであるから、全仏本部へ報告し、一方仏教系国会議員、門信徒代表とも会見し、追つて中央政府に要請すべき旨の答申を得たのである。

全仏では前記の行政訴訟、請願運動を今後一層強力に推進するとともに、信者を得るためには手段を選ばず、公然と暴力行為をほしいままにするが如き創価学会の態度に対しては、寺有墓地の宗教性と管理権を確立する意味から、毅然たる態度を以てのぞみ、かかる問題を根絶すべく鋭意努力中である。なお全仏では全国同信各位の組織的且永続的な協力を切に要望している。

近代仏教研究会

壬生照順

台東区永住町一三六

京都市下京区烏丸松原上東入

京都府仏教会

電下⑤一六八二番  
振替京都二二六〇六番

台東区浅草松清町

浅草本願寺婦人会

電話浅草一五二二六番

神奈川県藤沢市

時宗繪本山遊行寺

時宗々務所

四天王寺福祉事業団

吉田秀映

NHK 摩尼清之

参議院議員

全日本仏教婦人連盟理事長  
全日本仏教会常務理事

山本 杉

東京都千代田区永田町  
参議院会館

全仏参与

参議院議員

大谷 瑩 潤

東京都千代田区永田町  
参議院会館

参議院議員

全日本仏教会国際委員

赤松 常子

東京都千代田区永田町  
参議院会館

大谷 大学長

正親 含 英

真宗 高田派宗務院

宗務総長 誓山信暁  
総務 桜井頭光  
同 徳照大宝  
津市一身田町

京都市左京区聖護院中町  
聖護院門跡

修験宗本庁

管 長 岩本光徹  
総 務 岡本孝信  
教務部長 中井禅隆  
財務部長 大西円照  
庶務部長 杉藤天瑞  
社会部長 永倉敬昭

法華宗（本門流）宗務院

東京都台東区谷中坂町八〇  
管 長 貫名日怡  
総 長 福島泰信

真宗誠照寺派

総 務 波多野暁浄  
参 務 六梧諦現  
松本靈正  
児玉義諦  
長田智龍  
福井県鯖江市下深江

# パキスタンへ贈る観音像

## 来日の大統領へ手交

概報のとおり、パキスタン仏教徒へ贈る友好親善の平和観音菩薩像一軀の開眼供養は、十一月廿五日東京永平寺別院にて曹洞宗高階龍仙禪師導師のもとに挙行したが、十二月十二日に国賓として来日したパキスタン大統領モハマッド・アユブ・カーン閣下を通じて贈呈することに決定したので、全仏代表として、副会長鶴岡清師(豊山派管長)、小野塚潤澄師(豊山派部長)、石川存静全仏国際局長、柳岡国際部長、高山宥進師(豊山派管長従者)、高藤鎮雄氏(仏像製作者)、古川為三郎氏(平和観音讃仰会長)、鎌田全仏主事らは十二月十八日午後七時十分東京芝白金の迎賓館において、パキスタン大統領に接見し、鶴岡会長が歓迎のことば(別項)を述べたのち、ブロンズ製の観音菩薩像立像一軀を大統領に手交した。大統領は「有難くお受けいたします。この仏像は両国の親善を益々深めることに役立つことでしょう。帰国したらペンシヤワール博物館に奉納して、友好のシンボルといたすつもりです」と謝辞をのべ会見を終えた。

### 常務理事会開催

全仏では昭和三十五年度最後の常務理事会を十二月二十二日午前十時半から東京築地本願寺にて開催し左の案件について熱心に討議した。議題一、才九回全日本仏教徒会議神奈川県大会一、その他の件、なお同所でひきつづき懇親会に移り、終始なごやかに懇談し午後一時すぎ頃散会した。

### 千葉県仏役員総会開催

千葉県仏教会では十一月二十九日午前十一時より成田市新勝寺信徒会館で役員総会を開催した。

### 中国仏教協会代表

#### 招請運営委員会開く

全仏関西事務局(阿部慶昭総長)では十二月二十三日午後二時から全仏本部の要請により西本願

謹

### 融通念仏宗々務所

- 管 長 西洞院時雄
- 宗務総長 田中瑞哲
- 教学部長 宮島義証
- 庶務部長 福井英典
- 財務部長 久保田教順

### 兵庫仏教会

- 会 長 中野文門
  - 副会長 佐藤覚雄
  - 副会長 井上正道
  - 事務局一同
- 神戸市兵庫区松本通三丁目(法華寺内)

### 日蓮宗々務院

- 管 長 山田日真
- 宗務総長 望月桓匡

### 滋賀県野洲郡中主町 真宗 宗務所

- 真宗 木辺派
- 宗務長 仲井義照

賀

### 聖観音宗

- 金竜山 浅草寺
  - 貫 首 清水谷恭順
  - 執事長 五十嵐亮俊
- 東京都台東区浅草公園

### 東叡山

- 寛 永 寺
- 住 職 浦井亮玄

### 築地本願寺

- 輪 番 後藤澄心

### 大本山成田山新勝寺

- 貫 首 荒木照定

新

真宗大谷派本願寺教学委員  
日本仏教讃仰会理事長  
全日本仏教会国際委員長

### 中山理々

### ヤング・イースト社

- 会 長 長井真琴
  - 専務理事 村野宣忠
- 東京都台東区北清島町一五〇  
電話根岸一(三八四九番)  
九四六九番

### 喜多院

- 塩入亮忠

三笠会館  
仏教タイムス社

### 社長 谷善之丞

年

# 大正新脩大藏經再刊に就いて

大正新脩大藏經再刊の要望は、単に国内のみならず、海外に於いても、年と共に昂まつていたが、なにしる、これは世界的大刊行物であり、そんなに簡単にやれるものではない。ところが、このたび、機縁熟して再刊にふみきり、種々の困難を克服して、既に、才五〇卷史伝部<sup>2</sup>、才九卷法部ケ部<sup>3</sup>、才四四卷論疏部<sup>5</sup>諸宗部<sup>1</sup>の三巻を配本している。この調子で行けば、予定の本長八十五巻、別巻総目錄三巻の再刊は、何の不安も無く進められるであろう。その上で図像部十二巻は、新工夫を加え、原色版を多くして、追加刊行すれば、非常によいものになる訳だ。技術革新の時代だけあつて、出版技術も進歩しており、今回の出来は実に立派である。

初版は大正震災のため、万事不如意の時に刊行を始めたので、活字からインクにいたる迄、完璧を期し得る材料は入手誠に困難であつた。だから、今日から見れば、印刷の濃淡や字づらの不統一等を指摘することが出来るが、当時としては止むを得なかつたのだ。しかしそれ等の欠点をこのたびは、非常に細心の注意を払つて訂正改善してあることは、誠にうれしく感謝に堪えない。製本にも念が入れてあり、装幀に合成樹脂デラクルを用いたことは、その強靱性を数倍高めた点で特に称讃に値する。このような刊行物は、時機を逸するとなかなか購入出来なくなる恐れがあるから希望者は、限定部数が無くなりぬうちに早く予約

せられるようお奨めする。  
發行所  
東京都文京区高田豊川町三七  
大正新脩大藏經刊行会

## 中山国際委員長帰国

昨秋からインドを中心に東南アジア各国へ親善の旅をつづけていた中山埋々師(全仏国際委員長)

## 全仏推薦 一九六一年版 仏教大年鑑刊行さる

二ヶ年間に亘つて執筆編纂につとめて来た「昭和三十六年版仏教大年鑑」はこのほど同刊行会(代表常光浩然師)で漸く実を結び、実に二十五年ぶりに完成した。この大年鑑は従来のものに比べて、あらゆる点においてその規模の大きさは他に類例がなく、全仏教徒、各宗派、各府県仏、諸団体に欠くべからざる貴重な資料である。目次は総体篇、教学篇、国際篇、宗団篇、団体篇、人名篇、海外団休人名篇、統計篇等々に分れた大冊で、世界仏教界の鳥瞰図と云うことが出来る。同刊行会では、発行部数の関係もあるのでなるべく早目に申込むよう云つているので、御購入希望者は左記へ申込み願いたい。

発売所 仏教大年鑑刊行会  
場 所 東京都千代田区神田神保町三ノ二九  
電 話 東京 331-2416 番  
振 替 東京 七二二五三番  
定 価 一部 千五百円(送料別)

は、予定より二週間遅れて十二月十七日午後七時五分羽田着の日航機にて帰国した。この日空港には日本仏教讃仰会、東京博善社等から多数出迎えたが、全仏からも柳部長、鎌田主事らが出迎えた。中山委員長は空港ロビーで「インドでダライ・ラマ師に会いチベットの悲劇をきき、深い同情の意を表した。またビルマでウ・チャントン氏に会つたとき氏は次期世界会議をハワイか、米本土にもつて行きたいとの意を示していたが私も同意している」と語つていた。

## 高野山真言宗から タイへ留学僧

高野山真言宗(宗務総長津田実雄師)では、かねてからタイ国へ日本人留学僧を送る計画であつたが、このほどタイ国バンコック市の日本人会からの招聘でこれが実現する事になった。派遣される留学僧は長原敬峰師<sup>32</sup>才、高野山金剛峰寺信徒課に勤務)でバンコック市のワット・マハター寺院において、向う五年の間タイ仏教を学ぶ傍ら前記寺院にある日本人納骨堂の管理にあたることになつている。なお現在同寺院には独人四人、英人二人、スイス人一人が夫々留学僧として在任しており、日本人としては初めてのケースである。長原師は来る二月二日横浜港出帆の英国船で出発する。また同船で画家の宗肇氏(大分県出身)も仏教画研究のため渡印する。

## 全仏推薦 『ビルマの墓標』

鈴木鍊成師著  
忘れられた幾多の戦友を  
用うため著者は昭和三十三年末から翌年初春にかけてビルマに眠る日本軍将士英霊慰問の旅に出た。本書は著者の赤裸々な心情をつづつたもの。

アート写真 廿八枚  
美本、定価二二〇円  
発行所  
東京都台東区北清島町二番  
日蓮宗宗務院

## 駒沢大学

総 長 保坂玉泉  
学 監 藤田俊訓  
本校 東京都世田谷区深沢町  
分校 東京都渋谷区大和田町

## 小堀仏具店

京都市烏丸通東本願寺前  
電話(37) 一二五六番

## 栄昌堂印刷工業株式会社

東京都中央区築地一ノ一  
電話 東京 546 〇三〇番

## 仏旗を掲げましょう

中旗(三・五尺×三・三尺) 三六〇円  
小旗(二・八尺×二・二尺) 九〇円  
輪袈裟 五〇〇円  
レコード 三三〇円

あゝこのよるこび(仏教徒の歌)裏面は「法のみやま」  
仏旗、レコード、輪袈裟、  
いづれも実費。お申込みは  
全日本仏教会

# 墓地法改正請願運動

## いよいよ実動へ

昨秋以来全仏では墓地埋葬等に関する法律の一部改正を要求して、行政訴訟運動を続けているが、全国各宗寺院に配布した請願書がこの程一部(凡そ五万通)集まつたので、之を本年一月早々開かれる通常国会に提出するため、衆参両院の各紹介議員まで提出を開始した。

これは、各都道府県より参集した請願代表者数百名によつて、夫々各地区選出同志議員百名の手もとに配布され、更にこれを基点として衆参両院議長に提出される。東京墓地対策委員会(委員長小松浄祐師)では二十八日まで続けられるこの請願運動に積極的に協力し、全国から参集している代表者と共に、毎日地元東京仏教団の協力を得て、強力な運動を展開している。全仏では、この運動を一層もり上げるために、全国仏教徒の強い結足と、一層の協力を切望している。

### 墓地対策常任委員会開催

東京墓地対策委員会(委員長小松浄祐氏)では、昭和三十六年度への対策を立てるため十二月十九日午後五時より東京上野公園見明院で常任委員会を開催した。出席者は委員長以下法律顧問各担当部長等凡そ二十名で、具体的対策については十一月十三日の才四回公判の記録が翻訳されるのをまつて、それを中心として強力に推進

することを決議した。なお一月開かれる通常国会に提出する請願書(凡そ五万通)については今年中に紹介議員の手もとまで搬入することを決め、強力な請願運動を展開することとなつた。

### 大谷参院議員西独へ

参議院議員であり、全仏顧問として墓地問題では特に活躍されている大谷賢雄氏は、このほど西ドイツのアデナウアー首相に招かれて十二月廿七日空路西独へ出発することになつた。氏は帰路イギリス・アメリカ・ハワイ各地を視察し一月廿五日に帰国する。

全仏では同氏が帰路通過されるアメリカ・ハワイの關係開教宗派当局へ便宜供与方の依頼をした。

### 世界仏教徒

#### 会議について回答

世界仏教徒連盟本部(ウ・チャン・トン会長)からこのほど「カンボジアにおいて開かれる予定であつた才六回世界仏教徒会議はカンボジア国王の逝去によつて既報のとおり無期延期になつており、WFBとしては招請状を発信していない。然しWFBでは、一九六一年か六二年にカンボジアにおいて会議が持たれるもくろみで、目下カンボジアの關係筋と交渉中である」旨の書簡が全仏にとどいた。

# 歓迎のこころ

我国の全仏教徒を集結している全日本仏教会を代表し、パキスタン大統領閣下を衷心より歓迎いたします。

私等日本仏教徒はあらゆる点において貴国に負うところがあります。紀元一世紀末において、その帝国の首都を貴国の現在のペシヤワール、当時のブルシヤブラに置いた、カニシカ王の敬虔なる御努力がなければ、中央及び東アジアに仏教は伝わりませんでした。初期大乘教の大論師であり、私等が菩薩として敬つて無着、世親の両菩薩はこの同じブルシヤブラに出現されたのであります。

世界は人類の平和を求め悲願にもかかわらず依然として闇黒の中にあります。私等仏教徒は自由と寛容の精神が国際協力を増進するものと信じております。閣下の御来日によつて貴国と我が国の友好は一段と増進いたしました。我々が仮令あるにしても相違点に執着せず、共通の地を共に行くとき、全アジアは一つとなり世界の平和は確立されます。

閣下の御来日に際し、パキスタン国仏教徒に観世音菩薩のブロンズ像一軀を贈呈することは、我々仏教徒の喜びとするところであります。私等の住むこの世界の隅々にまで平和になるように、この菩薩は怒眼を以て全衆生を視ております。私等仏教徒が仏像発生の地である貴国に、この像を御送りすることを菩薩は必ず御喜びになつていふことと確信いたしております。

茲に閣下と貴国民の幸福と繁栄を御行り申上げます。  
一九六〇年十二月十八日

全日本仏教会々長 大谷 光暢

### 全国仏教学生英語弁論大会

国際仏教研究所主催、全仏後援のもとに十一月十九日京都女子大学において開催された、才六回仏教学生英語弁論大会は、予選通過者二十五名が参加して熱弁をふるつたが、地元京都女子大生の福田紀子さんが輝く一位に入賞し、全仏会長賞を受賞した。なお二位(石橋湛山賞)京都女子大、近藤トヨさん、三位(仏教徒文化交流協会賞)京都女子大、瀬川真澄さんが夫々入賞した。

なお当日、全仏代表として、関

懇談したが、一五〇名ほどの仏教徒が参集し盛会であつた。

### 埼玉に玄奘三蔵靈骨堂落成

かねてから埼玉銀行頭取平沼弥太郎氏が、六千万の巨費をかけて建設中の玄奘三蔵靈骨堂が、埼玉県入間郡名栗村の白雲山中腹に、みごとに完成し、その英姿をあらわした。同霊骨堂奉賛会では釈尊成道の十二月八日から三日間に亘つて、白雲山鳥居観音に於て曹洞宗管長高階龍仙下導師のもとに盛大な落慶法要を催し、近在から多数の名士、信者が参列した。

### 大正大学長に青木道見氏

大正大学々々長那須政隆博士の任期満了に伴う、大正大学々々長選考委員会(委員長長谷川良信氏)では、十二月十七日正午から大正大学会議室にて後任学長の選考を行い、現大正大学理事長青木道見氏(東京都目黒区下目黒天台宗龍泉寺、目黒不動住職)を満場一致学長候補に選出し、二ヶ月半に亘つた学長選考に終止符を打つた。なお十二月二十一日大正大学において開会の理事会において同氏の学長が正式に決定された。

### あとがき

◆みなさま明けておめでとごうございます。各位の御多幸をお祈り申し上げます。今年もよろしく御指導御協力のほどお願ひ申し上げます。◆仏教界の内蔵する問題の中で墓地問題はもつとも大きな問題の一つであります。本年こそはこの問題がみなさまの御協力を頂いて解決することを念願して止みません。◆本編集について色々御指導頂き、御意見等賜りますなら幸甚に存じます。どうぞよろしく